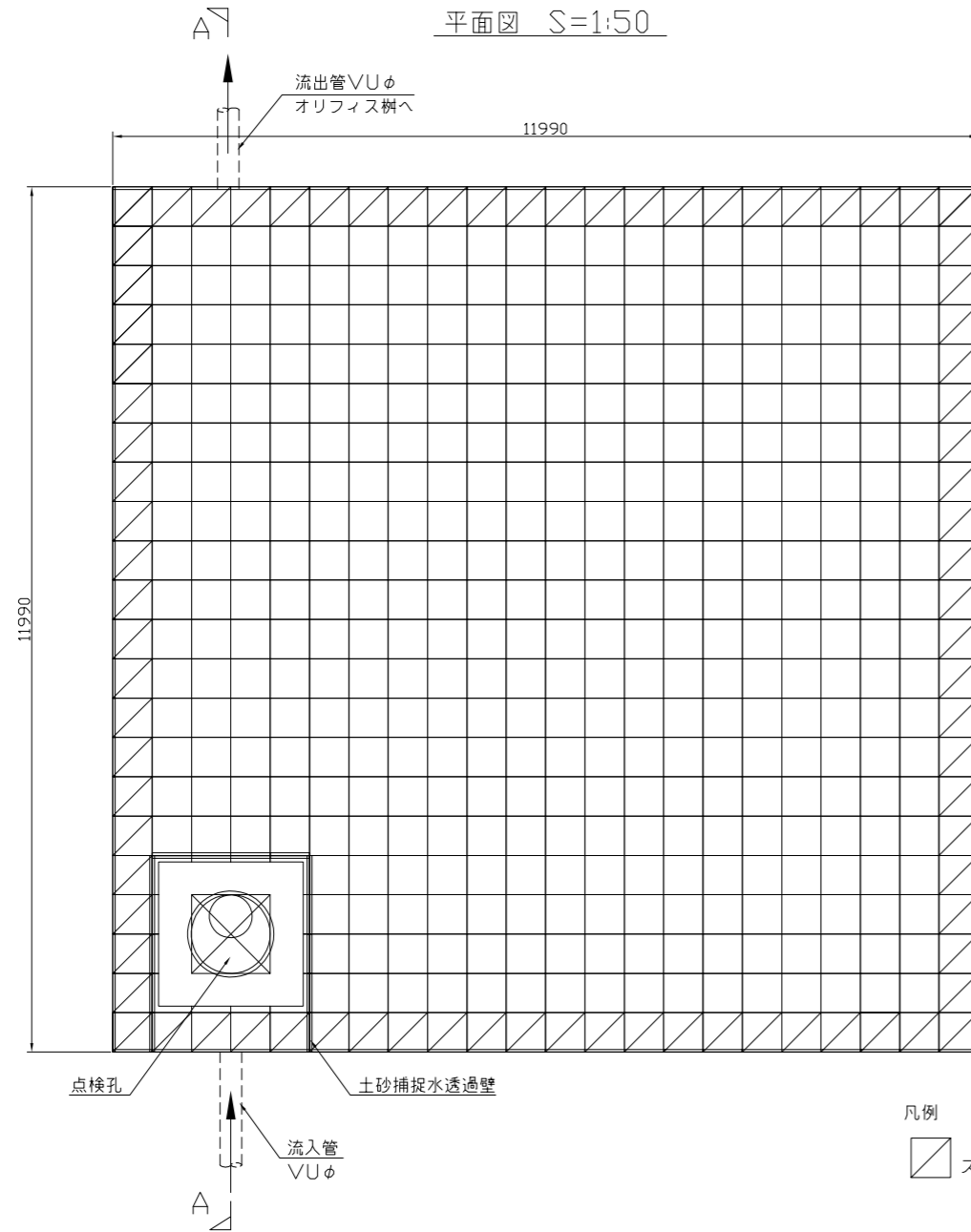
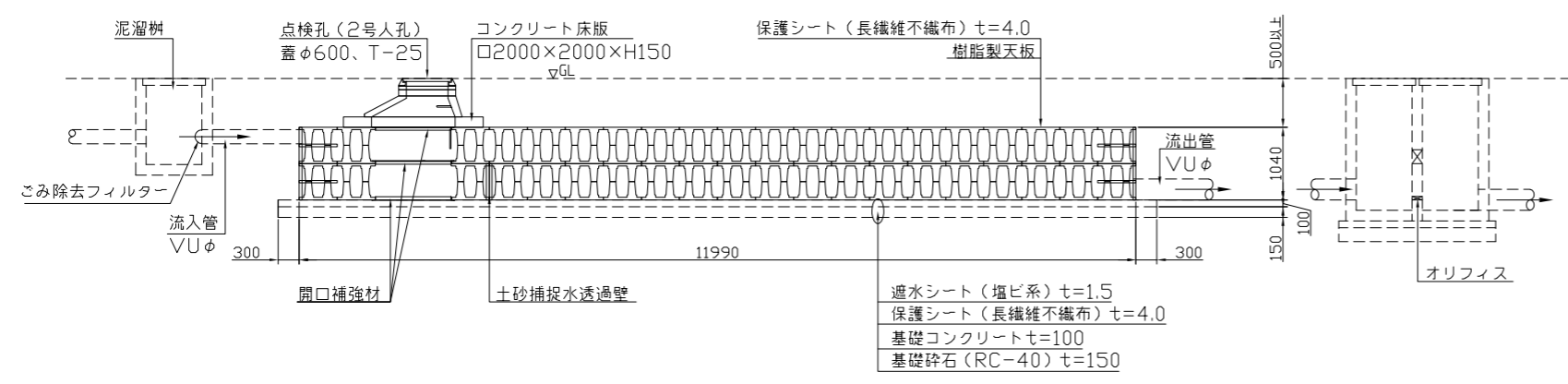


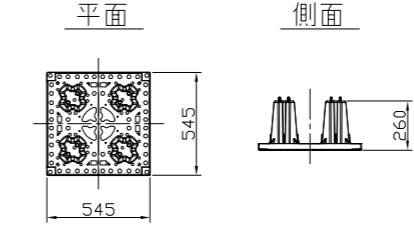
# 雨水貯留施設構造図（例） （調整池）



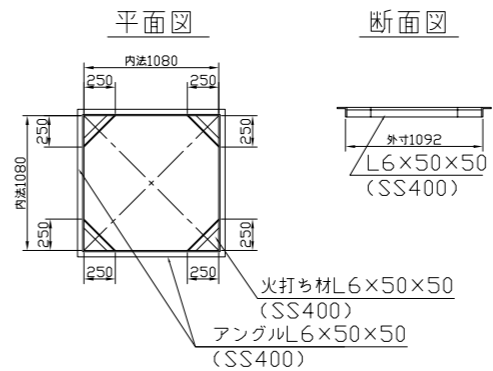
A-A断面図 S=1:50



樹脂製ブロック製品図 (AE-1型) S=1:20

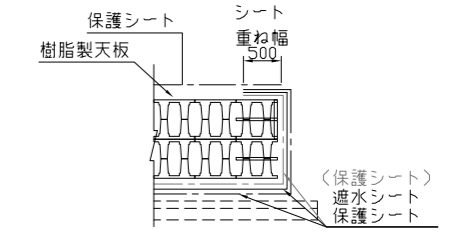


点検孔開口補強材 S=1:30



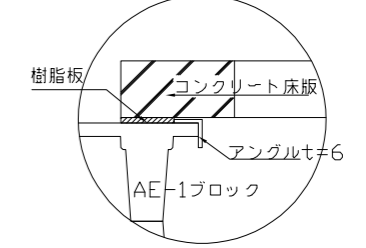
注、点検孔1箇所に付Ⅲ型2個Ⅳ型1個使用する。  
鉄部は、溶融亜鉛メッキ処理とする。

シート工詳細図



凡例  
 - - - - 保護シート（長繊維不織布） $t=4.0$   
 ———— 遮水シート（熱融着型塩ビ系シート） $t=1.5$

樹脂板敷込み廻り



有効貯留量

項目	幅(W) (m)	長さ(L) (m)	面積 ( $m^2$ )	高さ (m)	空隙率 (%)	有効貯留量 ( $m^3$ )
調整池	11,990	11,990	143,760	1,040	93	139.04

注意

1. 流入管・流出管の管径は仮定であり、雨水排水計画に従い変更すること。
2. 地下水位は、槽底面高よりも低いものと仮定した。  
地下水位が、槽底面高よりも高い場合は、浮上する危険があるので別途、浮力対策コンクリート等の浮力対策検討が必要となる。
3. 槽底面より地下水位が高い場合、遮水シートの内側にも保護シートを敷設する。